

「国立台湾大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学部・研究科修士2年(留学時点) 林 和樹

スプリングスクールの一番の成果は語学学習への熱意が大幅に上昇したことです。毎日の授業の後に街に繰り出し、なんとか中国語で話そうともがけば、その日の学習成果がすぐに実感できます。こうした経験を積み重ね、自分の考えが他人に伝わるとうれしいという、語学学習の根幹を大切に3週間を過ごせました。以下、プログラムの内容に言及しつつ、そう評した理由を述べます。

スクールの軸である中国語学習プログラムは50分の授業が基本単位で、これが3週間、平日午前中毎日3コマあり、合わせて45コマの授業を受けました。スクールは全25名の学生(日本、タイ、ミャンマー、インドネシア、インド、ロシア出身)が参加し、初日のプレースメントテストで習熟度別に4つクラス(1クラスあたり4~8名程度)に振り分けられます。中国語未修者向けクラスからディスカッションや街頭調査を実践するクラスまで、クラスのレベルは幅広く、各学生の習熟度や目標に対応できていたように思います。当初、私は未修者向けクラスに配属となりましたが、さらに難しい内容に挑戦したいと考え、ひとつ上のクラスに変更してもらいました。未修者向けクラスは英語で中国語を教授しますが、それより上のクラスは中国語で中国語を解説します。変更後のクラスは生徒全員が日本人でしたが、授業はもちろん中国語で進行します。このクラスではリスニングとスピーキングの練習とくに注力し、中国語で意見表明、および50-80字程度の短い作文ができるようになることが目標でした。毎日小テストと宿題がありますが、私は文章作成能力を上げたかったので、自発的に作文を書いては先生に添削していただいていたのでした。

このスクールは語学以外に台湾の文化を知るための講義およびフィールドトリップが組まれています。講義は2時間ほどで計3回、台湾大学の教授が担当していただきます。内容は、信仰、演劇、気候や食物などでした。授業は英語で進み、初歩的な部分から入るので安心してついていけました。フィールドトリップは平日放課後ならびに土曜日に日帰りで行きます。行先は台北近郊で、萬華、三峡・鶯歌、九份、猫空などです。

現地では10名程度のスチューデント・アドバイザー(SA)が参加者の手助けをしてくれます。彼らはフィールドトリップに同行してくれるほか、ご飯に誘ってもらったり、いろいろとお世話になり、2週目になると仲良くなって放課後は一緒に遊びに出かけました。もっとも印象に残っているのは西門のカラオケへ行ったことで、これは日本人・台湾人・タイ人で行き、英語・中国語・日本語で歌い、台湾で流行している曲を覚えられました。ずっと聴いていたけれど歌うには至らなかった大好きな中国語の曲をSAの友人に手伝ってもらいながら歌えたときは感激しました。

さて、最終週にはファイナルプレゼンテーション、その後にフェアウェルパーティーがあります。台湾、あるいは各国の文化などについて各自が好きなテーマを決め、5分ほど全員の前で発表します。私は歴史学系の友人と交流した経験(後述)をもとに、台北市内にある二つの二二八事件記念館(台北市立ならびに国立)を紹介・比較しました。授業で習った文法を超えてややこしい表現が頻発する原稿となりましたが、先生が事前に原稿を添削してくれ、また授業内で発表練習の時間もとってくれるので、短い期間で発表を仕上げられました。手厚い指導体制だったように思います。各自のプレゼンテーションはそれぞれの出身や興味関心に合わせて練られており、非常に興味深いものでした。フェアウェルパーティーは文化講義の先生(前述)、語学の先生やSAの皆さんとともに高級中華に舌鼓を打ちつつ、これまでの思い出などで盛り上がりました。このパーティーでは生徒代表が前でスピーチ(中国語ならびに英語)をするのですが、私は志願してこの大役を担当させていただきました。プレゼンテーションおよびスピーチともに、事前の原稿準備から本番まですべてが良い経験となりました。とくに大勢の人に私の中国語を聴いてもらえたことは非常によい体験でした。スピーチで会場が盛り上がったときのことは鮮明に覚えています。思いが他人に通じてうれしいという、語学学習の根幹が強烈に思い起こされました。

ところで、私は歴史学の研究職への就職を希望しています。今回は、友人の紹介で台湾大学文学院歴史学系の学生と知り合えました。放課後、彼の案内で台北市内の博物館や史跡を巡り、また台湾および日本における研究状況について話し合い、互いの知見を深められたように思います。彼に良書を教えてもらい、現地でいくつかの書籍を買い求めました。私の語学力はまだ学術レベルには遠いですが、これらの本を読むことを当面の目標に学習に励みます。志を同じくする方と台湾で出会い、研究への情熱がさらに高まりました。スクールを終えた段階で、日常生活が困らない程度の中国語を習得しているはずですので、学術研究に必要な言葉を習得して、次回は調査研究か研究留学で渡台できればと思います。大きな野望を抱きつつ、この3週間で出会った友人たちの交流を続けていきたいです。いまはそのために中国語でLINEを送る練習をしています。スピーチでの強烈な感動を忘れずに楽しんで勉強していきます。